



【表紙の説明】 小型 SAR 衛星「StriX」

Synspective が開発・運用する小型 SAR 衛星「StriX」は、内閣府の革新的研究開発プログラム「ImPACT」の研究成果を基に、JAXA や国内有力大学との連携のもと開発が進められました。

最大の特徴は、従来の大型 SAR 衛星と同等の観測能力を持ちながら、重量を約 1/10 にまで小型化している点です。これは、折り畳み可能で展開時 5m となるスロットアレーアンテナや、1kW 級の高出力アンプ、効率的な熱制御技術など、先端的な設計の成果です。小型化に伴うコスト削減と、既製品の積極活用によって、低コストかつ多数機の生産・運用が可能となっています。

また、大容量バッテリーと高効率の発電システムにより、広範囲かつ多地点の撮像が可能です。特にインフラ監視や都市モニタリング、災害時の緊急観測といった用途で、迅速かつ高精度に広域情報を取得できることが大きな強みです。そして、品質や信頼性にも重点を置いており、故障率の低減や長期運用の実現によって、安定した衛星ネットワークを構築します。

さらに、StriX の開発は多様な専門性を持つメンバーによる強力なチームワークによって支えられています。チーム内の相互尊重やコミュニケーションを大切にすることで、技術的課題にも柔軟かつ迅速に対応し、品質向上と効率的な開発・運用を実現しています。

こうした技術力とチームワークを強みに、より広域で迅速なデータ提供が可能になり、地球規模の観測インフラとして衛星データ活用の未来を切り拓いていきます。